

吉川英梨

前回の「海蝶ノート」で、コロナ禍により忘年会・新年会がなくなってしまったという話をしました。各種パーティもそうですね。一昨年、私は「海上保安の日」の祝賀会や懇親会にご招待いただきましたが、出版業界にもたくさんのパーティがあります。主に賞の授与式であり、百人規模のものから、数千円近く集まる大規模なものもあります。

私がこれまで出席した中で一番大きかったパーティは、KADOKAWAが毎年主催している角川三賞受賞パーティです。超有名作家さんを中心に、編集者、書評家、カリスマ書店員、映像プロデューサーなど数千人規模の業界人が集まります。そこで

とにかく面白いのが『服装』です。

出版業界は自由な服装をしている人が多く、打合せでもほとんどの編集者は私服です。スーツを着てきたら「今日パーティかなにかですか?」「いやあ、役員面接なんですよ」とスーツを着ているだけで話題になります。作家でもスーツ着用者は少数派です。綾辻行人さんのようにベレー帽にこじられた服装の人から、京極夏彦さんのような日本服姿の方もいます。極めつけは某直木賞作家のK氏です。上下スウェット……(笑)あれはパジャマだろうと二度見したほどラフな格好をしていました。女性陣はざらびやかです。カラードレス、着物、ワンピースから、ティシャツにジーンズの人もあります。

そんな自由でざくばらんすぎる出版業界のパーティに慣れていて私、海上保安庁関連のパーティに初めて出席したのは、

男、男……。安倍首相(当時)の姿も2019年5月



一昨年5月の「海上保安の日」祝賀会でした。場所は国土交通省と海上保安庁本庁が入る、霞が関の中央合同庁舎3号館。霞が関の省庁に入るのはこれが初めてだったので、私はジミーチュウのお気に入りのピンヒールを履いて行きました。

会場はひな壇に金屏風が並び、角川三賞に負けず劣らず豪華な料理が並んでいましたが、改めて会場を見渡してびっく

り。  
スーツと制服しかいない。  
しかも男ばかり。

女性は数えるほどしかいません。しかも当時の総理大臣・安倍晋三氏もいらっしゃるといふことで、どことなく張り詰めた空気……。勲章をびっしりとつけた自衛隊関係者から海外のコーストガードの制服も見え、安倍前総理が来る直前にはSPが周囲をがちがちに固めてもいまし

## スーツと制服しかいない…しかも男ばかり

た。ある意味物々しさも感じ、(誰かK氏のように上下スウェットで来たらなごむのになあ)なんて妄想をしておりました。

この日のこぼれ話です。私はピンヒールなどめったに履かないため、祝賀会から1時間ほどして足が痛くなってきました。ちょっとパーティ会場を脱出して、女子トイレの便座に座ってひと息。ハイヒールを脱いでくつろいでいたところ、突然照明が消えて、「ひいっ!」女子トイレは真っ暗に!

どうやら節電のため、十分ほどでトイレは自動消灯してしまうようです。パーティ会場の女子トイレというのは、ドレスや化粧を直す女たちでむせ返り、混雑するのですが、どうやら十分近く、私以外に誰も入ってこなかったようです。

まだまだ海上保安庁は女性の数が少ないのだなと改めて実感したヒトコマでしたが、いやあ、怖かった。

(つづく)

## 海上保安の日祝賀会「いやあ、怖かった」